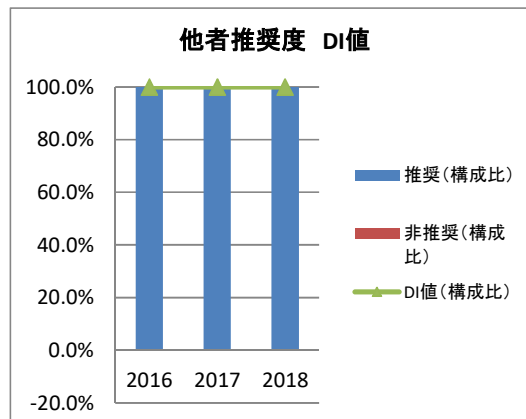
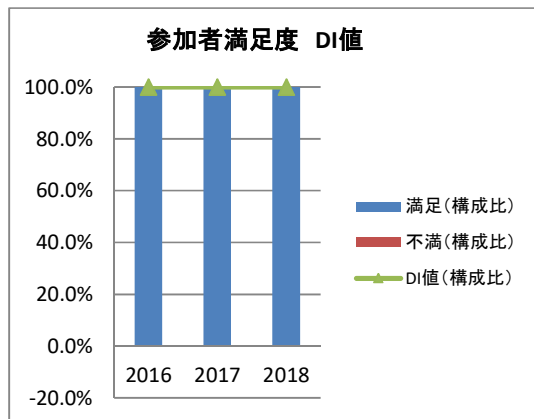


大学教職員のための英語スキルアップ研修

<事業概要>

留学生支援の充実や海外大学との連携事業推進など、高等教育のグローバル化が加速するなか、大学教員・職員の英語運用能力は基礎能力として不可欠となっています。加盟大学の教職員の英語運用能力向上はもちろんのこと、今後の語学学習意識の向上を目的として実施しています。



参加者満足度

	2016	2017	2018
満足(名)	81	86	99
不満(名)	0	0	0
満足(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%
不満(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	86	90	102

他者推奨度

	2016	2017	2018
推奨(名)	81	81	95
非推奨(名)	0	0	0
推奨(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%
非推奨(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	86	90	102

<参加者の声>

- 内容が濃く講師の方も随時文法をチェックしてくれた
- 非常に実務的な内容だった
- Active Learningの進め方を参加型で楽しく学ぶことができた
- 実用的な内容で良かった
- 学ぶことが多かった 先生のアシスタンスも大変勉強になった
- 自分の授業スタイルを見直すきっかけになった
- 日頃、教育現場で考えたり、迷っていたことに答えをもらった
- ロールプレイが非常に現実味があって役に立った
- 先生の英語と説明がわかりやすく楽しかったのでまた参加したい

<参加者の声を受けて改善を図った点>

○全6回(1年)の講座テーマについては、参加者の意見を踏まえながら入れ替えを行っており、2017年度は”TOEIC新方式対応セミナー””Meeting & Discussion”、2018年度は”Cross-cultural Manners and English Communication in Higher Institutions”を取り入れるなど、参加者の受講意欲を喚起できる工夫を行った。

○ 京都で学ぶ留学生の増加に伴い、大学のグローバル化の観点からは、英語以外の文化、特に京都で学ぶ留学生の約半数を占める中国文化を学ぶ機会として、2019年度から”中国語理解研修”を組み込むなど、今後、多文化理解も視野に入れながら、魅力ある研修づくりに努めていく。

※DI (Diffusion Index)値とは

「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加(プラス)／減少(マイナス)、サーベイデータ(アンケートなど)であれば回答を良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>